

『文明研究』第一号～第一〇号 総目次

第一号

創刊にあたって

齋藤 博 (1)

日本文明史の展開と中国文明の影響

——日・中文明史の時代区分の比較文明的的研究へのノート——

石田 一良 (3)

帆船万里の西洋科学批判について

五郎丸 延 (21)

キルケゴールとイブセン

——十九世紀北欧社会とその根本的思考——

岩原 武則 (33)

スピノザにおける人間の自由について

——「存在しない個物すなわち模態の観念」をめぐって——

四竈 正夫 (49)

ドストエフスキの小説における分裂の問題とその意味

高橋誠一郎 (61)

インド・カーストの変化と動き

——準拠集団理論に基づく分析——

コーシーに現れた極限の概念について

ラスコーリニコフの世界観における「時」の構造とその役割

小山 義則 (1)
木島 文彦 (17)

高橋誠一郎 (29)
H・イブセンの処女作『カティリーナ』における一考察
岩原 武則 (43)

Oniric Poetics in Modern Czech Literature
Joseph N. Rosinsky (66)

第三号

古代の罪観念について——罪と災をめぐって——

田崎 篤朗 (1)

四〇九世紀のカシュミール仏教事情
蓮沼 龍子 (11)

インドの負債契約労働者 (Bonded Labour) について
——ビハール州の例より——

小山 義則 (21)

ラスコーリニコフの自然観をめぐって
——感情と身体の働きを中心に——

高橋誠一郎 (33)

「ポーランド文化史講義ノート」
土谷 直人 (49)

第四号

『韓非子』の覇
相原 俊二 (1)

演劇の側面へ作品と観客の接点

——「エストロートのインゲル夫人」の受容をめぐって——

インド農村社会における党派争い

——ドミナント・カーストの争いを中心に——

岩原 武則 (11)

ピンダロスにおけるヘクロノスについて
カルカッタにおける P.E. の機能について

小山 義則 (23)

中津海理恵 (37)

八代 和雄 (49)

吉野 誠 (59)

『大東合邦論』の朝鮮観

第七号

第五号

佐藤直方と三輪執斎

田尻 祐一郎 (1)

偽ディオニシオス・アレオパギテースのヘエロースについて

桜内 正美 (13)

「ホメロスの社会の T. M. M. 概念について」

——叙事詩の成立を中心に——

柳鶴 優子 (25)

『罪と罰』における「良心」の構造

——良心の用法をめぐって——

高橋誠一郎 (37)

清末、一八九〇年代の西洋観

——張之洞と譚嗣同の場合——

杉山 文彦 (49)

科学とエスノ科学試論

長 龍子 (57)

クダー刻文の和訳

定方 晟 (74)

第六号

文明のための一試論

齋藤 博 (1)

——溝口雄三氏の「中国基体論」について——

杉山 文彦 (11)

ピンダロスにおける thymos, phren, noos
『バイドン』99Cにおける δευτερος παους について

中津海理恵 (21)

——A魂のめまいVとの関連を中心に——

平野 陽一 (42)

西インド仏教刻文の和訳

定方 晟 (56)

〔講演〕

中国における「封建」と近代

溝口 雄三 (1)

〔論文〕

明治前半期の朝鮮観

吉野 誠 (23)

ヘラクレイトスにおける魂と宇宙世界の関係について

——断片62の解釈を中心に——

柳鶴 優子 (31)

ブラキュロギヤ

——プラトンにおけるもうひとつのピロソピアーのあり方について——

平野 陽一 (41)

アルペール・カミエの『裏と表』『結婚』における

「皮肉」「一致」「無関心」について 惟村 宣明 (53)

Siva 神への礼拝儀礼における amasuddhi 折居 貴子 (63)

『夢溪筆談』にみられる沈括の自然研究態度 長 龍子 (73)

L'ACTUALITÉ ET LA CIVILISATION

——La Théorie Pratique de Michel Foucault——

Hisasi Nakagawa (6)

近代中国像の「歪み」をめぐって

齋藤 博 (1)

第八号

文化現象の基本条件

齋藤 博 (1)

『罪と罰』における都市の構造

高橋誠一郎 (17)

一九八九年五月二九日東海大学文明学会シンポジウム

「これからの文明学科」発表原稿

文明学に求められるもの

文明への一試論——東アジア文明圏を対象として——

文明論と文明学科

学の対象としての立体

——プラトン「線分の比喩」を中心に——

アルブレヒト・デュラーの《嘆きの主としてのキリスト》をめぐって

——その精神的考察——

第九号

〔論文〕

文明における権力と象徴

——「未開」からの照射——

一九九七年問題と香港の民主化

〔特集〕

文明学と文明学科

——文明学会第二回シンポジウム「これからの文明学科(Ⅱ)」をめぐ

つて

シンポジウム開催に至る経緯と議論の展開

松本 亮三 (21)

文明学について

齋藤 博 (26)

これからの文明学科について

松本富士男 (31)

文明研究と文明学科

渡瀬 信之 (35)

求められる学——文明学考

浅見 聡 (39)

〔研究ノート〕

第一回漢字文化フォーラム参加報告

杉山 文彦 (45)

——文明学への一試論——

〔論文〕

ヘラクレイトスにおける『神の法』の処罪について

柳鶴 優子 (1)

ピンドロスにおける正義について

桜内 理恵 (15)

第一〇号

〔論文〕

文明論の系譜

——明治から大正へ——

〔特集〕

「現代フランスにおける文明論」——文明学科第三回シンポジウム

ウム

文明への問い

——先取りした文明学の構想——

齋藤 博 (13)

ミシェル・フーコーにおける「文明」の positivité について

中川 久嗣 (17)

ヨーロッパ文明における否定および批判の契機について

——デリダ、ドゥルーズにおいて二〇世紀のヨーロッパ文明を理解
するための基礎作業として——
保坂 幸博 (23)

〔図書紹介〕

『日本文明』

——受容と創造の軌跡——
田中 克枝 (31)

〔書評〕

池田清彦著『構造主義科学論の冒険』
保田 道雄 (37)

〔論文〕

Ancient Egyptian Bread from the Predynastic to the
Old Kingdom
Kyoko Yamahana (38)